

1 まえがき

農林工学系年報第7号は、本学系教職員の平成7年度1年間の足跡を示したものです。

その内容は目次にもありますように、本学系教職員の研究・教育・管理運営・社会活動の詳細を把握できるよう整理されており、本学系の活動状況を多くの方々にご理解いただくと同時に学系教職員の自己評価と将来への発展のための参考になることを意図して編集されたものであります。特に本号では昨年度退官された鈴木光剛先生より、含蓄の深い特別寄稿をお寄せ頂きました。ご定年まで農学研究科長として研究教育に情熱を傾け、研究科改革の第一線で活躍され、私たちを陰に陽にご指導いただきました。

さて21世紀を目前に政治・経済をはじめあらゆる分野で社会全体が大きく変化しようとしております。教育も例外でなく、大学の役割も大きく変化しつつあります。こうした流れの中で、平成5年度に設立されたバイオシステム研究科も修士棟が目出たく完成するに至りました。6年度以来、農林学類から生物資源学類への名称変更や農学研究科留学生の定員化、学園都市内国立研究機関の研究員を対象としたリフレッシュ教育課程の新設など農学研究科の再編整備に向けた改革が現在進行中であり、本学系の教員もこれら改革の牽引役としてその一翼を担ってきております。

また7年度には科学技術基本法の成立と8年7月それに基づく科学技術基本計画が閣議決定されました。大学および研究機関の評価と整備充実などを含む研究開発推進に関する総合的かつ計画的施策が実施されようとしています。このように本学系を取り巻く内外の研究・教育環境は大きく変化しつつありますが、こうしたときにあたり、本年報を学内外の人々にご一読願ひ、農林工学系教職員の活動状況を正しく評価いただくとともに、忌憚のないご意見を頂き、将来への発展の糧としたいと願っております。

おわりに本年報の編集委員のご尽力と学系教職員のご協力に対し、心より感謝申し上げます。

平成8年9月

農林工学系長 天田 高白